



第 29 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会
教育セミナー 6

小児脊柱変形手術における reciprocal change の重要性 - 可動椎間温存のために -

演 者

松村 昭 先生

大阪市立総合医療センター
整形外科副部長

日 時

2020 年

11 月 14 日 **土** 16:00 ~ 17:00

開催形式

Live-Web開催

詳細については学会ホームページをご覧ください。
第 29 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会
ホームページ <http://www.congre.co.jp/29jsis/>



本セミナーでは、日本整形外科学会教育研修講演として下記の
いずれか 1 単位を取得できます。

N-03：小児整形外科疾患（先天異常，骨系統疾患を含む，ただし外傷を除く）

N-07：脊椎・脊髄疾患

SS：脊椎脊髄病単位

※受講料は参加費に含まれます。



抄 録

小児脊柱変形手術における reciprocal change の重要性 - 可動椎間温存のために -

大阪市立総合医療センター 整形外科
松村 昭

小児脊柱変形の病因は、特発性、先天性、症候群性、神経筋原性など多岐に渡る。また小児脊柱変形は進行性であり、成人期以降に ADL 障害を惹起するような有症性の脊柱変形に至ることもある。小児脊柱変形に対する治療の目的は、患児の将来を見据えて治療方法を適切に選択し脊柱変形の進行をコントロールすることである。成長とともに変形が進行する小児期では治療の時期を誤らないことも重要となる。保存的治療を行っても看過できない脊柱変形が残存する場合には手術治療が必要となる。小児脊柱変形に対する手術治療の目標は良好な脊柱バランスの獲得であるが、同時に可動椎間の温存も重要となる。つまり理想は短い固定範囲で十分な変形矯正を獲得することである。この相反する目的を達成するためには固定範囲の設定が非常に重要であるが、判断に苦慮することも多い。成人に比べ自然矯正能力を有する小児においては、主カーブを適切に矯正し、代償性カーブの良好な自然矯正 (reciprocal change) を促し進行性の遺残変形を残さないことがゴールとなる。また冠状面アライメントに注目しがちな側弯症においても、矢状面アライメントを十分に評価し適切に矯正することが重要である。特発性側弯症に対する選択的胸椎固定術 (selective thoracic fusion), 選択的胸腰椎 / 腰椎固定術 (selective thoracolumbar/lumbar fusion), 先天性側弯症に対する半椎切除併用 short fusion が術後の reciprocal change を促す矯正固定手術の代表である。良好な治療成績が報告されているが、比較的短い固定範囲を選択するため術後 distal adding-on, decompensation などの合併症に注意が必要である。本講演では小児脊柱変形に対する reciprocal change を考慮した手術戦略について術前計画、術後合併症予防を含めて考察したい。